

平成12年5月11日

報道関係各位

財団法人 日本リウマチ財団

平成12年度「ノバルティス・リウマチ賞」

受賞者決定

財団法人 日本リウマチ財団では、過日開催した「ノバルティス・リウマチ賞」の選考委員会において、平成12年度受賞者を下記のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

受賞者 みやさか のぶゆき 宮坂 信之
東京医科歯科大学医学部第一内科 教授

研究テーマ 慢性関節リウマチにおける滑膜増殖機構の解明と遺伝子治療による人為的制御の試み

なお、授賞式は5月12日の第44回日本リウマチ学会評議員会で行われる予定です。

この件に関するお問い合わせ先：

財団法人 日本リウマチ財団 専務理事 田中 治彦 TEL: 03-3946-3551
ノバルティス ファーマ株式会社 広報グループ 喜多 英人 TEL: 03-3797-8027

宮坂 信之

昭和22年9月18日生まれ

東京医科歯科大学医学部第一内科 教授

略 歴： 昭和 48 年 東京医科歯科大学医学部 卒業
48 年 東京医科歯科大学第一内科 入局
54 年 カリフォルニア大学医学部サンフランシスコ校 内科研究員
56 年 テキサス大学医学部サンアントニオ校 内科研究部門助教授
61 年 東京女子医科大学リウマチ痛風センター 助教授
平成 元年 東京医科歯科大学難治疾患研究所 教授
7 年 東京医科歯科大学医学部第一内科 教授 現在に至る

学会・社会活動：

日本リウマチ学会幹事（学会誌編集長）、日本炎症学会常務理事、日本アレルギー学会評議員、日本内科学会評議員、日本学術会議免疫・感染症連絡委員会委員、医師国家試験作成委員、日本内科学会認定医・指導医試験問題作成委員

編集委員：「リウマチ」（編集長）「炎症」「日本内科学会雑誌」「臨床免疫」
「医学のあゆみ」「炎症と免疫」「RA&セラピー」（編集アドバイザー）
「Japanese Journal of Rheumatology (日本)」（編集長）「Arthritis & Rheumatism (米)」「Clinical & Experimental Rheumatology (伊)」「Lupus (英)」「Rheumatology (英)」

学術賞： 日本リウマチ学会フェロシップ受賞（昭和54年）
アメリカリウマチ学会フェロシップ受賞（昭和56年）
日本リウマチ学会賞受賞（平成元年）

【受賞研究要旨】

慢性関節リウマチにおける滑膜増殖機構の解明と 遺伝子治療による人為的制御の試み

慢性関節リウマチは我が国には約70万人の患者さんがいますが、来るべき高齢化社会においてはさらに患者数が増加することが予想されています。リウマチによる関節炎では、関節の裏打ちをしている滑膜組織と呼ばれる部分にまず炎症が起こります。その結果、この滑膜組織が増殖し、そこからサイトカインなどの炎症物質が大量に産生され、やがて軟骨や骨が破壊されるために日常労作に支障を来すようになります。これがリウマチが難病といわれるゆえんです。

我々はこの滑膜組織の増殖を抑えることができれば新たなリウマチの治療法が開発できるとの仮説を立てました。そして、細胞の増殖を抑制するサイクリン依存性キナーゼインヒビター（CDKI）という分子に着目して実験を行いました。まず、このCDKI遺伝子をアデノウイルスベクターを用いて滑膜細胞の中に導入してやると、試験管の中での滑膜細胞の増殖を抑えることができました。そこで、このCDKI遺伝子を実際に関節組織の中で発現させてやると、リウマチの動物モデルとして知られるアジュバント関節炎の発症を見事に抑え、軟骨や骨の破壊までも防ぐことができました。これらの実験的事実は、リウマチの関節炎においてCDKIという分子が重要な役割をしており、さらにこの遺伝子に関節内に人為的に導入してやると画期的なリウマチの治療法となる可能性を示していると思われれます。そして、この研究は難病として知られるリウマチの新たな治療法を開発するうえできわめて重要であり、また遺伝子治療の可能性についてもその展望をさらに開くものと考えられます。

【参考資料】

「ノバルティス・リウマチ賞」について

「ノバルティス・リウマチ賞」は、日本国内のリウマチ研究の発展、進歩に大きく寄与する可能性を有する独創的研究に対して与えられています。応募者は、リウマチ性疾患の基礎、臨床などの研究に従事する人々を対象としています。

当財団では、「リウマチの予防と治療に関する調査、研究およびその助成事業」を基本活動としており、この賞の創設もその一環となるものです。本賞は、日本チバガイギー株式会社（現：ノバルティス ファーマ株式会社）の協力を得て、平成2年に創設されました。平成9年4月に、日本チバガイギー（株）の医薬部門とサンド薬品（株）が統合し、ノバルティス ファーマ（株）として発足したのに伴い、名称が「ノバルティス・リウマチ賞」に変更されました。

現在、「慢性関節リウマチ」に冒されている患者数は国内で約70万人に達するといわれています。また、周辺疾患を持つ人までを加えると500万人とも全人口の15%ともいわれており、官民一体となったリウマチ対策が必要と考えております。

● これまでの受賞者（敬称略）

- 第1回（1990年） 平野 俊夫
大阪大学医学部 教授
バイオメディカル教育研究センター腫瘍医学部門 腫瘍病理学研究部
テーマ：リウマチの発症機序とIL-6
- 第2回（1991年） 池原 進
関西医科大学病理学第一講座教授
テーマ：骨髄移植による慢性関節リウマチ治療に関する基礎的研究
- 第3回（1992年） 西岡 久寿樹
聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター 教授
テーマ：成人T細胞白血病ウイルスによる関節炎発症機構の解明
- 慢性関節リウマチの病因解析モデル -
- 岩倉 洋一郎
東京大学医科学研究所ウイルス感染研究部 助教授
テーマ：成人T細胞白血病ウイルスによる関節炎発症機構の解明
- トランスジェニックマウスによる分子生物学的検討 -
- 第4回（1993年） 小池 隆夫
北海道大学医学部内科学第二講座 教授
テーマ：膠原病の血栓性病変と抗カルジオリピン抗体に関する研究
- 第5回（1994年） 笹月 健彦
九州大学生体防御医学研究所遺伝学部門 教授
テーマ：慢性関節リウマチの発症を規定する遺伝要因の解明

- 第6回(1995年) 橋本 博史
順天堂大学医学部膠原病内科 教授
テーマ: 全身性エリテマトーデス(SLE)の母親から出生する
児の転帰・予後と治療法に関する研究
- 第7回(1996年) 森本 幾夫
東京大学医科学研究所ウイルス疾患診療部 教授
ハーバード大学 内科 Visiting Professor
テーマ: ADA結合蛋白CD26のT細胞免疫機能への役割
- その遺伝子工学的・生物学的解析
- 第8回(1997年) 山本 一彦
九州大学生体防御医学研究所臨床免疫学部門 教授
東京大学大学院医学系研究科 教授
テーマ: 新しい方法論を基にした慢性関節リウマチの病因抗原の同定
- 第9回(1998年) 岡田 保典
慶應義塾大学医学部病理学教室 教授
テーマ: マトリックスメタロプロテアーゼによるRA関節破壊の分子機構
- 第10回(1999年) 吉崎 和幸
大阪大学健康体育部健康医学第一部門 教授
テーマ: サイトカイン産生異常の分子・遺伝子制御
- 慢性関節リウマチ、キャッスルマン病等をモデルとして -

(所属、役職は受賞当時)